

〔上ノ郷城跡発掘調査中間報告〕

戦国時代のロマンを掘る

家康の三河統一と鵜殿長照の無念

博物館

☎68・1881

神ノ郷町にある上ノ郷城跡は鵜殿氏が居城し、徳川家康に攻め落とされたことで知られています。博物館では、将来の保存整備に向けた参考にするため、平成18年度から発掘調査を順次実施しています。

これまでに4回、約千250m²について行いましたが、このほど主郭しゅかく(本丸)頂上部の調査がほぼ終わりましたので、その概要をお知らせします。



上ノ郷城(『諸国古城図』広島市中央図書館・浅野文庫蔵)

上ノ郷城とその歴史

熊野から来た鵜殿氏

平安時代の末期、蒲郡の中心部は三河国の国司・藤原俊成によって荘園が開発されました。その荘園は、後に熊野三山に寄進されましたが、荘園を管理するために熊野から派遣されたのが鵜殿氏といわれています。

上ノ郷城落城

戦国時代、上ノ郷城主四代鵜殿長照は、今川義元の妹を母に持つ関係から今川氏に属し、今川方の西端を守る有力武将でした。

永禄5年(1562)、上ノ郷城は、三河統一を目指す徳川家康(当時は松平元康)によって攻め落とされ、鵜殿長照も討ち死にしました。

た。この城攻めは忍者が活躍したことでも知られています。落城後、家康は配下の久松氏を置きました。

錯綜する建物跡

これまでの発掘調査で、主郭からは何棟かの建物跡が検出されました。これは、鵜殿時代の建て替え、落城後の久松氏による整備、また徳川家康関東移封後に吉田城主として東三河一帯を領地とした池田輝政により改修されたともいわれています。

そのため、柱穴などが錯綜しており、現時点で、どの時代にどの程度の建物があったか明確ではありませんが、発掘調査で検出された遺構はすべて実測のうえ図面化されていますので、これからの研究解析によって明らかになっていくものと思われま